

企業人政治フォーラム速報 NO.8

Business People Political Forum(BPF) 1996年12月17日発行 発行：社団法人 経済団体連合会 社会本部 政治グループ TEL.03-3279-1411 FAX.03-5255-6233

行革の必要性は、もはや党派を超えた共通の認識——新国会議員と語る会より

13日、今回の総選挙で初当選した議員と語る会が開かれ、新人らしい熱気にあふれた活発な議論が繰り広げられた。以下はその骨子。

議院立法により議員定数を削減 / 渡辺喜美議員(自民党) 故渡辺美智雄氏の遺志を受け継ぎ、日本の繁栄を持続させるために何をなすべきかを考え、実行するために立候補。行革の具体策として、議員立法による国会のリストラ、議員定数の削減を提言。

行政改革のプラスマイナス面について国民の理解を！ / 棚橋泰文議員(自民党) 通産官僚としての経験から、現在のタテ割りの制度では、組織として国益を考慮することが難しいと実感。前回の苦杯にもめげず、今回再挑戦し初当選。行革はやらなければならない。だが、その前にまずどのような痛みがあるのか、国民に周知徹底するこ

とが必要と主張。

国家の仕組みを変えることが必要 / 城島正光議員(新進党) 食品産業に従事し、コストダウンへの努力の成果が、円高により一気に無にされてしまうことの無力感を痛感。この状況を脱却するためには国家の仕組みそのものを変えることが必要との思いから立候補。行革について、野党は橋本政権が公約通り実行していくようにいい意味で追い込んでいく必要があると発言。

財政規模を小さくすることが急務 / 古川元久議員(民主党) 米国留学中に価値観が変わるほどの強いインパクトを受け、「官僚では今の日本を変えることができない」と、大蔵省を退職し、立候補。行革はもう待たない。橋本首相は、強力なリーダーシップで推進していくべきと主張。

大切なのは国民・国家のためにどうあるべきか / 平野博文議員(無所属) 5年体制の崩壊により既成政党のあり方に疑問を覚え、国会では立場的には不利だが、あえて無所属を表明し、立候補・当選。現在の改革論議は、各政党間の勝ち負けばかりで、国家・国民のための議論が抜けていると指摘。

羽田孜衆院議員、地方分権の必要性と政局展開の方向を語る

新進党最高諮問会議の羽田孜氏は、13日の政経懇談会において、近く新進党を離れ、新勢力の結集を図りたいと述べた。

羽田氏は行革について「何より地方分権の理念を打ち出すことが重要」と訴えた。「中央集権体制のままでは、小選挙区で選ばれた国会議員は一人で地元の利益確保のパイ役に忙殺され、本来の国政に携わることができない。地域が主体性を持つようになれば、無駄な投資もなくなり、国全体の行財政改革にもつながる」と説いた。

離党問題については、「閉塞状況にある新進党のウイングを拓くために分党は一つの選択肢」党外に出た者が真剣に行動すれば、新進党にもよい影響が及ぶ「今回、党が割れれば、事業部制の会社が分社化するようなもの」とコメントした。また「政治が行うべきメニューは固まっており、野党が提案し複数の政党が集って(改革実現のための)協議会をつくってもよい。これからは健全野党でなくてはならない」と抱負を述べた。

新人国会議員、かく考え、かく国政にいたれり【Vol. 1】

今回の総選挙結果の特徴の一つに、新人議員が多数誕生したことがある。それぞれに政治理念を持ち国政に身を投じた新国会議員だが、政界・政党に残る年功序列の傾向のため、外部での意見表明の機会が少ない。そこで当フォーラムでは、新国会議員を招いてのシンポジウムを適宜開催(第1回会合の様子は上記)するほか、アンケート形式で多くの新国会議員の方々に、政策傾向、政治信条を尋ね、これを随時本紙に掲載する。回答は多数に及ぶため、到着順に数次に分けて掲載する。情報の少ない新人議員の考え方を知るよい材料となるだろう。

プロフィール 氏名(年齢) ・政党 / 選挙区 「政治信条」	政策論点に対する各議員の賛否										立候補の動機	選挙戦を終えての感想	独自選挙公約			
	消費税率の引上げ	所得・住民税の引下げ	法人の税負担率引下げ	土地保有税率の引下げ	国会改革(立法機能拡充等)	小選挙区比例代表並立制の継続	内閣機能の強化	規制緩和	省庁再編	公共事業による景気拡大				首都機能の移転	持ち株会社の解禁	公的な社会福祉の拡大
富沢篤紘(57) ・新進 / 神奈川13区 「先に夢あり」														大和市議選がスタート。県内米軍基地の整理が直接的な動機。	責任を果たし当選、内心ホッとした。国・地元課題あり。力いっぱい取り組む。	県央4市合併。政令都市を目指す。
家西悟(36) ・民主 / 近畿ブロック 「光の当たらない人に光を当てる政治」														奈良社民から声をかけられ、最初で最後のチャンスであり、菅代表と仕事を共にしたいと思った。(行革)	現行の小選挙区比例代表並立制に批判はあるものの、私のような少数者の代表でも当選できる点で良い制度と思う。	厚生省改革。情報公開 自分が大阪HIV訴訟等で経験・苦労したことを訴えてきた
八代英太(59) ・自民 / 東京12区 「苦しみの中から喜びが生まれる」						×								参院18年の経験を生かして新ステージで思う存分、国家国民のために働きたい	たった一人しか当選できないこの制度は、日本の文化になじまない。当選100点、次点0点ではいかにも厳しい。	元気な経済 元気な福祉
松浪健四郎(50) ・新進 / 大阪19区 「公明正大」	×				×					×				国家・国民に奉仕したいと考えたので。	国民の政治意識の低さを実感。	
池坊保子(54) ・新進 / 近畿ブロック 「世阿弥の初心忘るべからず」	×													直接国政に携わらなくては日本社会を変えられない。政策に直接携わりたいから。	選挙でエネルギーを使い果たし人間の品性・尊厳を失う政治家が多くて残念。政治家である前に人間であってほしい。	政治に絶望せず国民の視点からおかしな点は指摘する

各議員からの補足コメント

...賛成 ×...反対 ...どちらとも言えない

富沢議員 税:直間比率改善が基本方向。政治:衆院は小選挙区制で政権を決め、参院は比例制で民意反映。外交:日米のみならず東南アジア、中国重視。

家西議員 税:少なければ良いが必要なものは出さざるを得ない。必要性を納得するためにも情報公開が必要。

池坊議員 選挙:重複比例は認めるべきではない。小選挙区落選者を比例で当選させては、何のための小選挙区か不明。有権者を愚弄するもの。